

♪ 2022年度 **poco a poco** ♪

Nr. 15 2022年 10月26日(水)

文責:プファイル・辰巳

学校祭 お疲れ様でした!

1日目のステージ発表は各学部、各学年とも見応えのある作品ばかりでした。何回も何回も練習して当日を迎えるわけですが、本番は1度きり。ハプニングがあったり、練習通りにいかなかったり。それでも、大観衆の前で、大きな声で演技したり、歌ったりしたことは、貴重な経験になったことと思いま

す。高学年のみなさんは、台本作りから裏方まで、役者以外の部分でも仕事を請け負い、立派でした。学校祭を通して、みなさん一回りも二回りも成長したと思います。

2日目のバザーは、保護者のみなさまのご尽力により、子どもたちはとても楽しそうにお買い物やゲーム、工作を楽しんでいました。日本の縁日を思い出すようなワクワクする気持ちが味わえたと思います。保護者のみなさま、ありがとうございました。



<音楽こぼれ話 ~シャガールと音楽~ >



絵画の中ではしばしば楽器がモチーフとなって描かれていることがあります。描かれた年代を見て、(この時代にこの楽器がもう使われていたんだな。)とか、(この時代の生活の中で、楽器がこんなふうに活躍していたんだな。)などということが分かったりもします。

左の絵はマルク・シャガールの作品ですが、ここにもヴァイオリンを弾く姿が描かれています。シャガールの作品の中では、ヴァイオリンはよく描かれていますし、その他にリュートやマンドリン、角笛などが描かれている絵もあります。

マルク・シャガールは旧ロシア(現ベラルーシ)で生まれたフランスの画家です。ユ

ダヤ系の出自でもありました。ロシアの10月革命後、1922年からパリに移住し、ナチスの迫害を逃れるために、1941年からはアメリカへと逃亡しました。戦後フランスに戻り、晩年は南フランスに住みました。

芸術家としてはまれな、97歳という長寿でした。その長い生涯の中で、一般的な絵画だけではなく、オペラ座の天井画や教会のステンドグラス、オペラの背景画など、さまざまな分野で作品が残っています。中でも有名なのがパリのオペラ座の天井画ですね。それにあやかっただけでなく、フランクフルトのオペラ座には、シャガールの絵が飾られている一室もあり、オペラの幕間に見ることができます。

またランスやメッツの大聖堂はシャガールのステンドグラスで有名です。フランクフルトの隣町、マインツにもシャガールによるステンドグラスで有名な聖ステファン教会がありますね。このステンドグラスは、ユダヤ人とドイツ人の和解を象徴する作品となるように、当時の牧師クラウス・マイヤーがシャガールに依頼し(1978年)、実現したものだそうです。シャガール最晩年の作品でもあり、9つ目の窓が出来上がったところでシャガールは亡くなり(1985年)、その後の仕上げはランス大聖堂でも仕事を共にしたシャルル・マルクが引き継いでようやく完成したそうです。お天気の良い日は、教会内がシャガールのブルーで満ち溢れます。



さて、そのシャガールの展覧会が間もなくフランクフルトのシルン博物館で始まります。シャガールとしてはあまり知られていない色彩の作品も展示されているそうです。また、モチーフの中に楽器を探すのもお忘れなく。下記の通り音楽に関する催し物もあります。

ちょっとだけ 芸術鑑賞ご案内

Schirn Kunsthalle (シルン博物館)

~ Chagall. Welt in Aufruhr 「シャガール展 無秩序の世界」 ~

2022年11月4日 ~ 2023年2月19日まで

※11月22日(火)19時30分より(シルン博物館にて)

Chagall - Chopin: シャガールの妻ベラの回想記と

ショパンの音楽による朗読会